

受理年月日
5.2.14

付託	番 号	委員会名	分 割	番 号	委員会名
(有)	(請願)・陳情 第 2 号	文教児童	有 (無)		
無	第 号		決定日 (理由)	令和 年 月 日 基準第 号	

件 名
志村小学校と志村第四中学校との 施設一体型小中一貫校計画に関する請願

紹 介 議 員	小林 おとみ	
	五十嵐 やす子	

提出者
(代表者)

住 所

[団体名]

ふりがな

氏 名

【区議会事務局処理欄】



外 0 名
署名 0 名

志村小学校と志村第四中学校との施設一体型小中一貫校計画に関する請願

【請願の要旨】

進行中の施設一体型小中一貫校計画と志村四中校地での校舎設計案を凍結し、見直してください

【請願の理由】

現在、志村小学校と志村第四中学校を施設一体型の小中一貫校として建設する計画が進められています。志村小は百年を越える歴史と伝統があり、志村城山の高台に建つ区内屈指の環境を誇るかけがえのない板橋の財産です。両校ともに小規模校ではなく、志村四中の敷地に志村小をまるごと入れる施設一体型小中一貫校建設計画には大変な無理があり、教育環境と近隣住環境の重大な悪化を招きます。

7階建てで提案されていた現志村四中校地での新校舎設計案は近隣住民の強い抗議で5階建て案に変更されましたが、階層を減じたことにより校舎の面積は拡大され、校庭面積はますます狭まる計画となっています。南側から北側に移される校庭は常に巨大な校舎の日影となり、現在の志村小や志村四中にある日光豊かな運動環境が失われ、児童生徒の健康な成長を損なうことが心配されます。グラウンドのトラックは他校と同程度の150mを確保と説明されていますが、トラック外周はフェンスと校舎に接近し、運動会の応援席や観客席も設置できない他校には例を見ない極端な狭さです。設計案を見るとトラック中央の80m直線コースのゴールはフェンスの直前で、全力疾走すればフェンスに激突することは明らかです。

このように児童生徒の安全を無視した危険極まりないグラウンドとなっているだけでなく、中学生の学校生活を豊かに彩り小学生も楽しみにしている放課後の部活動についても、校庭を使う運動部は廃部か制限を余儀なくされることが予想されます。

現在の志村小学校校庭と志村四中校庭を合わせた面積と比較すれば、一貫校の校庭面積はその1/3程度に縮小され、小学生と中学生を合わせた約900人の児童生徒を収容するにはあまりに劣悪な教育環境となり、子どもの伸びやかで健やかな成長発達を願うなら到底考えられない非常識な計画です。

そもそも小中一貫教育については、幼い小学1年生とおとなに近い中学3年生との体格の大きな違い、丁寧な保護と安心が何より求められる児童期と青年前期として自立を求める思春期との発達段階の根本的な違い、授業時間や休み時間の違いなど同一校舎で生活することには問題が多いことが先行事例や教育研究者から指摘されています。小中一貫教育のメリットとされている効果は施設一体型でなければ実現しない項目はほとんどありません。施設一体型小中一貫校の必要性については教育的な観点からもっともっと研究と検討が必要であり、保護者や現場教職員の十分な意見交流が先ではないでしょうか。

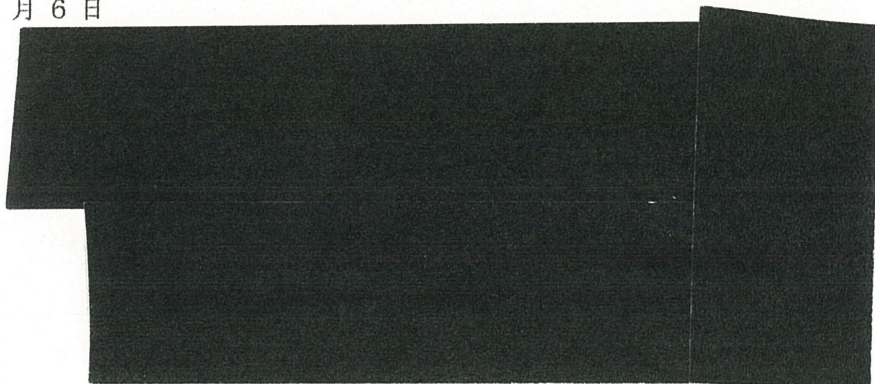
また、目の前に予想もできなかった巨大校舎が出現することになり、日当たりも見通しもよい住環境にあった志村四中近隣住民の被る深刻な被害に対しても根本的な解決にはほど遠いままです。

さらに、板橋区ハザードマップによれば志村四中は洪水時 3～5 メートルの浸水予想地で避難場所としては不適格であり、安心安全な高台にある志村小を失うことは地域の防災上も大きな損失となり住民に危険を招きます。

本計画はこれまで数回開かれた地域説明会やパブリックコメントでも賛成意見はほぼ皆無で、毎回疑問や不安が噴出しています。子どもや保護者への説明や周知も不十分で、地元住民も含めた合意を得ているとは到底言えない現状です。

以上のような理由から、このまま無理の多い本計画を強行実施することなく、いったん凍結して見直すことを強く求めます。

令和 5 年（2023 年）2 月 6 日



板橋区議会議員 坂本あずま お 様